

原子力発電所の電源線における送電鉄塔基礎の安定性評価報告書(概要)

【報告概要】

当社の原子力発電所の電源線は、500kV 大間幹線、500kV 奥清津分岐線、66kV 大間線の3線路（136基）があり、鉄塔基礎の安定性評価を以下のとおり実施した。

1. 盛土の崩壊に対する基礎の安定性評価

盛土箇所抽出は、基本的に、今回の検討の発端となった盛土崩壊箇所と同規模の盛土を対象とし、更なる安全性向上の観点から、それよりも小規模な盛土についても対象とした。

机上調査および現地調査にて、盛土有無の状況を確認した結果、大間幹線周辺に小規模な盛土が4箇所あるものの、盛土面に崩壊痕は無く、鉄塔からの距離もあるため、鉄塔に大量の土砂が流入する可能性は低いことから、盛土の崩壊に対する基礎の安定性に問題はないことを確認した。

2. 地すべりに対する基礎の安定性評価

地すべりについては、地すべり地形分布範囲と送電鉄塔の位置関係から、現地踏査が必要な鉄塔（7基）を抽出した。これらについて、地質専門家による現地踏査を実施し、鉄塔敷地周辺の地盤変状や鉄塔基礎の異常の有無を確認した。その結果、安定検討や追加設備対策などの保全対策が必要な鉄塔はなく、地すべりに対する基礎の安定性に問題はないことを確認した。

3. 急傾斜地の土砂崩壊に対する基礎の安定性評価

急傾斜地については、送電線とその周辺の地形状況が記載されている実測平面図や国土地理院発行の地形図等を使用し、図面判読を行った。その結果、急傾斜地で土砂崩壊があった場合、基礎の根入れが浅く影響を受け易い鉄塔はなく、急傾斜地の土砂崩壊に対する基礎の安定性に問題はないことを確認した。

以 上